

黎明紙第8号

明主様の御救いについて

人間と病氣（二）

先々号（第六号）では、陽川博士が言つて居られましたことを引用させていただき、私共にとって最も根本的な”生命”の問題を解決するにあたつてよこたわるいくつかの問題点を考えさせていただきました。

過去の長い歴史の間には、多くのすぐれた人々の努力によつて、未知なものに対するたえざる探求が続けられ、一つ一つその中にある真理が明らかにされてまいりました。その結果、現在のような素晴らしい文化の發達がなされ、私共はそこから多くの恩恵をうけてまいりました。

今までの学問・科学では、色々な事実をもとに、その一つ一つを理詰めを考え（教29・63）、それらの積み重ねによって、かなりの時間をかけ、真理を明らかにしてまいりました。私共人間にとって、少なく共現在までは、これが最善の方法であり、この方法によって昔からの所謂非科学的なあり方によって導き出された数多くの誤った考え方・結論が正され、多くの真理・特に物質面に於いての真理の解明がなされてきたわけであります。しかし、一方、人間の智慧によって、ものの本当の真相を見通すことが、非常に困難であることも事実であります。特に、“人面生命の問題” “病氣の問題” となりますと湯川博士が指摘されて居りますように、今までの単なる物質をあつかっている時にはそれでよかったことが、

もはや許されない深刻な問題となつてあらわれてくるわけであります。

原子爆弾の発明によつて科学者のあり方に多くの反省がなされましたが、それ以上の本質的な問題に私共は直面していると思つて申しても過言ではないと思ひます。

今までの研究・実験では、もし誤りが分ればそれを改めて、より正しい方向へ、一步一步近づいていけばよかつたわけであります。しかし、『生命』に関する問題の場合は、もはや誤りや失敗がほとんど許されない場合があるどころか、間違いによつては人間を破滅させるおそれさえ生じてくるのであります。それも、始め正しいと考えられていた考え方・方法或は結論がある期間を経たのちに誤りで

あると分ってくることがあるところに深刻なしかも根本的な問題がひそんでいるわけであります。

そこに、湯川博士も言って居られますように、人間には中々難しいことではありませんが、出来るだけ先を見通す智慧、私共の今後進むべき正しい方向を見通す智慧、宗教的に言えばその奥にある神様の御心を覚らせて頂ける知恵をいただくことが大切な問題になってくると思います。明主様より私共は次のように御垂示をいただいて居ります。

『世の中で一口に智慧というが智慧にも種々あり、浅い深いもある（中略）一時的でなく永遠の栄を望むとすれば、深い智慧が働かなくては駄目である。そうして深い智慧程誠の強さから湧くのであるから、どうしても正しい信仰人でなくてはならないという結論になる。』（栄10）

『それから（信仰の）向上という事は、一番の事は智慧正覚です。分ると言っても間違った分り方ではいけません。その標準は御神書です。御神書に書いてある事が大体。なるほど』と思えば、それは智慧正覚が大分上がっているのです。

”どうも分らない”というのもあるし、その時はなるほどと思っても、家に帰れば忘れるというのがあります。いろんな事がフツと分るのは智慧正覚が向上しているのです。（中略）だから以前は五つ分ったが、この頃は六つ分る、七つ分るというのなら智慧正覚が向上しているのです』（垂2・（23）『神の啓示』によって説かれた御神書によつ

て、私共は始めて正しい智慧正覚を磨かせていただけるわけで、
この点に關しましては、次回に今少し考えさせていただきたいと思ひます。